令和５年度版
河合小中一貫教育広報紙
（令和６年３月発行）

新河合プロジェクト

河合小中一貫教育推進委員会
河合小学校（66-2913）
河合中学校（66-2907）

～小中一貫教育のさらなる発展をめざして～

1 はじめに

河合小中学校が今の形で教育活動を実施し始め今年ではや９年が経過します。よって、本年度からは１～９年生までの全校生が小中一貫下での児童生徒となります。小野市の標榜している「脳科学理論に基づいた教育」を制度面から実現している本小中学校にとって、いよいよその真価を問われはじめる時が到来したと身が引き締まる思いがしています。

おかげさまで、これまで地域や保護者の皆様方の理解と支援をいただきつつ、河合小中学校は、その教育の有り様を追求していくことができました。ここに深く感謝申し上げると共に、今後も「他者と共創し、主体的に学ぶ児童生徒の育成」を小中共通の学校教育目標として掲げ、そこに集うすべての人がいきいきと輝く学校づくりを目指していきたいと考えております。どうかよろしくお願いいたします。さて、本年度は、例年以上に１～９年生の『縦の絆づくり』を意識しつつ、さまざまな取組を進めて参りました。その模様をどうぞご覧ください。

2 授業づくり

「未来を切り拓く協働的で探究的な学びの創造～教師の思いを起点とした授業づくりを通して～」を研究主題として小中合同で授業研究を進めて６年になります。今年度は５月９日に河合小学校・河合中学校の全教職員が集って実施した「第１回小中合同研修会」からスタートしました。そこでは、河合の小中一貫教育や授業づくりにおいて、全教職員が学校教育目標や研究主題について理解を深め、その意義や目指す児童生徒像について話し合いを行いました。児童生徒同士や、児童生徒と教師が「主体―主体」の関係になって学ぶ河合の「授業づくり」をさらに進化・充実させられるように、小中合同でグループを作り、全教職員が研究授業を行っています。

３年生の国語の授業では、『れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう～すがたをかえる大豆～』という単元で研究授業を行いました。筆者があげた段落の例やその順序について考える中で、それらには意図があることを知り、さらに自らも意図をもって事例を選び、段落の並び方を考えることで論理的な文章を書くことを目指す探究的な学びの形でした。その過程で、一人ひとりが自分の意見をもち、積極的に交流する姿が印象に残っています。正解のない難しいテーマでしたが、３年生が一生懸命に思考しながらクラスメイトと意見を出し合い、考えを深めることができました。

８年生の道徳の授業では、「君、想像したことある？」という教材で、タレントをしている春名風花さんが小学６年生の時に朝日新聞に寄せた『いじめている君へ』という題名の作文を読み、意見を出し合いながらいじめについて深く考えました。いじめをしている人だけではなく、観衆や傍観者など様々な立場の人が「想像力」をもつことで、いじめを止めることができるのではないかと、生徒一人ひとりがそれぞれの立場に立って真剣に考えていました。自分に何ができるのか、どんな行動をとることができるのかと、思考を深め、自分の意見を素直に出し合う姿がありました。

河合小学校、河合中学校の全教職員が関わって、単元や教材と向き合い、児童生徒にどのような力をつけたいのか、学びに向かう姿勢をどのように育みたいのかを深く研究しながら授業づくりに取り組んでいます。上記の授業以外でも、児童生徒が一生懸命に思考する姿や、仲間と協力して課題解決に向かう姿を多く見ることができました。今後も引き続き研修に取り組み、教師一人ひとりが自身の授業を振り返りながら、児童生徒を中心に据えた授業づくりを進めていきます。